

**i** いつまでもお元気で～祝100歳  
氷川町長寿表彰～

村上廣義さん(下宮)は今でも畑仕事をされるなど、とてもお元気です。

健康の秘訣は好き嫌いをしないこと、ご飯にいりこや昆布の粉末をかけて食べるのだそうです。

ひ孫に会うことを楽しみにされていて、村上さんは「よくここまで来た。まだまだ頑張りたい。」と話されました。



▲村上廣義さん(中央)

**i** ハローワークから  
事業主の皆さまへのお願い

6月1日から、中学校および高等学校の来春卒業予定者を対象とした求人の申込み受付を開始します。若年労働者の地元定着・育成促進と、地元就職を希望する新規学校卒業者がその能力を十分に発揮できる就職先を得られるよう、早期の求人提出と若者が働きやすい職場環境整備についてご協力をお願いします。

☎ ハローワーク八代 学卒係 ☎0965-31-8609

**相** 人権擁護・救済センター  
「ハートフル ちなもい」

電話相談・面談  
◆日時 毎週月曜の12時から14時  
◆場所 八代教育会館内  
◆内容 調査相談専門員による人権擁護・救済に関する相談・改善・解決  
◆費用 原則無料  
☎ 人権NPOちなもい ☎0965-32-3030

## 町民文芸

### 短歌

珍しき庭の花木を人聞かば  
笑いながらに「なんじゃもんじゃ」と  
北野津 宮本 末秋

朝露の奥に聞ゆる鐘の音  
空は眼醒めしはなた色かな  
北野津 井田 道寛

苗分けし友の家家庭先に  
ピンクゆらゆらかすみ草花  
西野津 古崎スエノ

水張りて代田広がる風薫る  
若葉爽やか植田近し  
西野津 古崎 栄子

陽の当る庭でデコボン喰ひをれば  
電線の鳥チユンと囀る  
吉本 高橋 澄子

姿なく世界を襲うコロナ菌  
人の心も虫食む日々に  
上鹿島 前村 俊子

### 俳句

鳴き知らず天気予報士の雨蛙  
北野津 宮本 末秋

球磨川のしぶきは青しところてん  
北野津 井田 道寛

コーヒーも紫陽花も好き人も好き  
西野津 古崎スエノ

短夜の目薬差して辞書捲る  
西野津 古崎 栄子

コロナ禍の解除迫りて燕飛ぶ  
吉本 高橋 澄子

紫に匂がごとき藤の花  
上鹿島 前村 俊子

**投稿について**  
・楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。  
・内容確認する場合がありますのでお電話番号を記載してください。  
・毎月5日必着  
※遅れて投稿された場合掲載できない場合があります。あらかじめご了承ください。

**投稿先**  
〒869-4814 氷川町島地642番地  
企画財政課 企画係  
☎0965-52-5850

## 八火図書館 だより

新着図書	
一般書	児童書
さだの辞書 さだまさし/著	あいうえおさん 森 絵都/文
神域 真山 仁/著	パンどろぼう 柴田 ケイコ/作
魔女たちは眠りを守る 村山 早紀/著	きみに応援歌を 古関裕而物語 大野 益弘/著
エンド・オブ・ライフ 佐々 涼子/著	おばあちゃんもこどもです いもとようこ/作
ハツ江おばあちゃんの フライパン1つで100レシピ 高木 ハツ江/著	もっと知りたい 微生物大図鑑 北元 憲利/著

紫陽花が綺麗に色づき始める季節となりました。この時期は雨も多く室内で過ごす機会も多いですね?そんな時は、しとしと降り注ぐ雨音を聞きながら、お気に入りの一冊でゆっくり読書してみるのはいかがでしょうか?

休館日の本の返却は、正面玄関横の返却ポストをご利用ください。

**【お問い合わせ先】**  
八火図書館 ☎0965-62-3489

## 「人が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町」 人権啓発コーナー

新型コロナウイルス感染症(正式名COVID-19)が、世界中に蔓延し、非常事態の中に陥っています。町内では、感染者は発生していません。一時期、熊本県全体でも増加傾向にありましたが、現在では発症者数は落ち着いています。

このようなことが発生すると、人は不安から逃れたいためでしょうか、「感染された方。感染のうたがいをもたれた方。医療関係者の方々。」に対して、差別的な言動や誹謗・中傷が、一部で投げかけられているようです。もし、「自分がそうになったら…」と考えてみましょう。大変、悲しいことです。

これまでに、私たちは大きな災害に遭い、現在も災害復旧中ではありますが、皆で助け合い・協力し合い、知恵を出し合い乗り越えています。ぜひ、互いに励ましあい、元気を出しこの状況乗り越えましょう。

「密閉空間・密集場所・密接場面」を避け、手洗い、マスク着用、換気をするなど感染防止に努めましょう。

「互いに励ましあい、人が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町づくり」を推進しましょう。

☎ 生涯学習課 生涯学習係 ☎0965-52-5860

### Minamata

法道寺 汀

水俣病を世界に伝えた米国の写真家ユージン・スミス(1978年没)を、人気俳優のジョニー・デップが演じる映画「Minamata」が2020年2月21日、世界3大映画祭のつべろリン国際映画祭で初公開された。上映後は何度大きな拍手がわき起こり、デップさんが舞台上に立って拍手に答えた。と新聞が伝えた。写真はデップと真田広之とアイリーン・美緒子、スミスが肩を組んでレッドカーペットに立っている姿を載せていた。

アイリーンさんは69歳と記載されていたが、写真には驚くほど若く写っていた。

二人が水俣駅に降り立ったのは71年9月、10日前に結婚したばかり。スミス氏52歳、アイリーンさん21歳、31歳の年の差であった。二人は71年から3年間水俣病患者が多発した地域で暮らした。

その3年の間に、私はアイリーンさんとはほんの少しの時間が社用で出会っている。海岸近くの林の中の古びた小作りな住まいが記憶に残っている。語学は特に日本語だけが堪能で、訪れた際にスミスさんの入居まじりと思いついた。スミスさんが不在で、アイリーンさんが出て来たので胸をなでおろし挨拶をし、用件を済ませた。何を話したのかは覚えていない。

当時、チソ工場の排水口近くの海は、どろどろしたブルーの絵の具を溶かしたような不気味さを醸し出したのを今も覚えている。

スミスさんは、太平洋戦争中、従軍カメラマンとして受けた砲弾による傷などの痛みを耐えるため、アルコールが欠かせなかった。アイリーンさんによれば、「もう体がもたない」と悟っていたという。

69年訴訟の第1次訴訟原告の家庭を回り、親交を深めていく。風呂場で胎児性患者の娘を優しく抱く母親を捉えた作品も、水俣に来て3ヶ月目には取り終えていた。水俣病は多くのマスメディアが取り上げて世界に水銀中毒の怖さを知らしめた。その歴史の中の数分間に私が関わっていたことを、この度の映画祭で思い起こすことになりました。